

広報清内路



# 村政かわら版

清内路村役場

〒395-0401

清内路村 375-1

TEL: 0265-46-2001

FAX: 0265-46-2016

E-mail: info@seinaij.jp



## 授産所の休廃止もやむを得ず

行財政改革推進委員会が村有施設を視察し、あり方を検討



貴重な文化財の活用を（文化財保存庫）



委員自らアイデアを絞るも存続は困難（授産所）

### 遊休施設の活用を 授産所存続は困難

行財政改革推進委員会は、10月の中旬にかけ、村有施設の視察を行うとともに、それぞれの施設のあり方等の検討を行いました。

#### 2班に分かれて視察

10月11日（月）、12日（火）の両日、デイサービスセンター、上下診療所、文化財保存庫、宅幼老所、保育所、小中学校、授産所、ふるさと村自然園など、計12箇所の村有施設を視察しました。

委員の皆さんも、初めて入る施設が多く、遊休施設の活用などについて、多くのご意見をいただきました。

#### 施設の存続や活用を議論

10月24日（月）、視察の結果を受け、村有施設のあり方や、村長への答申案の検討を行いました。主な施設に関する議論の内容をご紹介します。

#### 授産所

仕事の確保が困難になり、作業員も減少している旨、また、指導員、作業員とも話し合った上で、休廃止もやむを得ないとの結論に達した旨が事務局から説明されました。活発な議論がなされましたが、「仕事や作業員の確保が困難な現状では多額の村費を投入してまで存続することは困難であり休廃止もやむを得ない」との結論に達しました。

#### 診療所

県内で常勤医師がいない市町村は清内路のみである、という現状も踏まえ、「赤字が出ようとも必要な施設」という認識で一致しました。

#### 文化財保存庫

貴重な文化財が保存されているにもかかわらず、そうした資源が活かされていない、また、建物も有効に活用されていない、とする多くの意見をいただきました。

#### その他

施設の存続には合併問題も関係してくるため、「合併の議論が全く進んでいない」とことに対する危惧を唱える委員もいらつしました。

委員会は、この後、施設の有効活用などを盛り込んだ答申を正式にまとめ、村長に答申する予定です。

### 川裾地区で 清内路の清水巡り

川裾地区では、どこでも村役場で「地元の清水の良さを知らう」との意見が出されたことから、10月16日(日)にトレッキングを兼ねて清水巡りを行いました。

櫻井成人さん(川裾第一住宅)を案内人に、高橋小学校長、増沢中学校教頭も含め16名が参加。不動滝、せいせい清水、下清内路旧道、三ツ坂清水、観音山、完宝清水、出作りの力水、大槇の岩清水のコースを、車の移動も含め2時間余りかけて歩きました。

### 新工ネビジョン 策定委員会始まる

10月21日(金)、第1回清内路村新工ネビジョン策定委員会が開かれました。

この委員会は、村内で現在どんなエネルギーをどのくらい使用しているかを調査し、清内路村に合った新工ネビジョンは何かと言つてを研究するために設置されました。  
信州大学工学部・浅野良晴



て 園公 山音 観

今まで知らなかった清水に感心する人、ベットボトルで持ち帰る人、その場で飲む人など、それぞれに清水を楽しむたようでした。終了後は大槇で見つけたキノコを鍋にして軽く交流会も開催。清内路の秋を十分に満喫した半日を過ごすことができました。

教授を委員長とし、農協・商工会・森林組合・中部電力・県関係・村議会議員・村関係の各代表の方、住民代表の櫻井谷男さん・原錠次さん・櫻井藤三郎さんなど12名のみなさんで構成されています。  
今後は、村内各エネルギーの使用量調査や、住民の皆さんにご協力いただいで新工ネビジョンについてのアンケートを行い、2月末までに報告書を作成する予定です。

### 清内路街道を 観光資源に

10月5日(木)、飯田市山本と下清内路をつなぐ通称「清内路街道」を観光資源にしようとして、飯田市側から14名、本村から7名が参加し、街道の視察を行いました。

これは、山本地区住民らの呼びかけで実現したもので、清内路の関所跡や観音山公園、水戸浪士の墓、蚕玉様、蛇塚、五輪原の石造群、米川の大滝など、街道の歴史と文化を再認識できました。下清内路区会では、11月に街道の整備作業を計画しています。



識 再 認 歴 史



に 検 討 エ ン エ ル ギ ッ シ ュ

### 地域で支え合う なかちゃんを視察

10月22日(土)、第1回やらまい改えまい清内路塾として、あんじやねえ分科会のみなさんの発案により、上水内郡中条村の「なかちゃん」・小川村「小川の庄」の視察研修を行いました(参加者20名)

「なかちゃん」とは中条村内に住む高齢者が、住民同士で、自分にできるサービスを1時間700円で提供し合うシステムです。家の修理や畑仕事など、仕事は様々です。一行は、実際にお年寄りが集う茶話会に案内していただきました。山の斜面に建つ、小さな集会场のような建物の中には、会場いっぱい集まった皆さんの明るい笑顔が満ちていました。中条村も清内路と同様に過疎化や労働力不足に悩んでいるようですが、ここに集まった皆さんには

「誰かに依存する」という姿勢はなく、自分たちの暮らしは自分たちで守っていくのだという気概(気負いではなく)が感じられました。  
続いて訪れた小川村の「小

川の庄」はおやきで有名。その知名度から、大型バスが立ち寄る大型ドライブインのような施設をイメージしていましたが、林道のような細い道沿いに建つ、質素な佇まいでした。ここは高齢者を主な労働力としており、元気なおばあさんが手際よくおやきを焼いていました。

今回の視察に参加した誰もがお年寄りからパワーを授かったようです。帰りのバスの中では、「行ってよかった」と口々に話していました。ほかのこの成功例も失敗例も「百聞は一見にしかず」です。次回も皆さんに興味を持っていただけるような塾を企画しますので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。



と 懇 談 サ ロ ン い き い き